紀行七部拾遺 之

中村俊定文庫
文庫 18
725
1

初情哉
野さかりの
三歌仙
ひとつけし
桃の実

嘉人

和情哉八尺くるるものと地形
偽まもるこころ水きしハ常さ
こくてかすしこ哉ハ貞享の
京俳凛こたるものなり一株桃の
実ゑ偽者之いかるらするさか
よりて偽者の思ちとさすする
ちら侍をハりの巻ハ俳ち風流の

極密定藏
変九
榮頻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月

七部拾遺序

天下有有益書而無益者也とゝいつ
れ乃ち世をうゝ侍らむとてにかゝの
五車ふつゝ夫ゝ[illegible]書新集と義
[illegible]ゝかゝ侍るべしうくたりゝ侍
もの者伊乃菊舎ゝひろ武えゝる
土をあよまるひ利をそゝゝへの

[illegible]

ものしたるものかの家に一信乃
利をはぶきよみ乃世人は
かつらを百佐乃はつゝ毒を書う

享和二年秋

平安

竹巣月居誌

初懐紙序

注勢の頌をさくりて珠をとらるゝハいとあやしきことなりあれと求られ者それによりて八雲をさくるもやおのれならさるなんや
ゐまたてゐるへし深くしてあしきにゆゑ古人の跡をうかひ伝へたるいとさちう連珠の良玉にあらぬそうかへらをそらしたひとはは是くのあきの前録をまもるとも日々あらためる法にてをのれか文成りて一本となりたる古をあらん時てゆゐしるさるゝをとくる秋雲しなる狂の世よりは一字を樵るる意なくし哲の才をたつるに傍ひおなるものゝ形を手ちてさそしと見出かゝる古美乃わるき玉を探ゆ隠せるをのまことに善あしひをあかて其人をかへさるそのうち幸におのれ意を行てあく世に識やと喜ひを書るもとものハ難せ難生るる人なうそ

手皆 宝暦十一年秋八月

丙寅初懐紙

日の春をさすかに鶴の歩み哉　其角
砌に高き去年の桐の実　文鱗
雪村の柳見にゆく棹さして　枳風
酒の幌に入あての月　コ斎
秋の山手束の弓の鳥売らん　芳重
炭竃こねて冬のこしらへ　杉風
里々の麦ほのかなる村つゝき　仙化
とゝ[illegible]　李下

かすかさき三ッ物を拵む乃なれ　挙白
壽仲よ狩の傾いくより　朱絃
浮ましく連歌の点を見んと家　蚊足
献よを来みる高き床　千里
又帰の梨くち鳥帽子に見えける　芭蕉
うき世みるを高ふ見く鏡見　執筆
慣進し君の本様の蒔くゑ　鱗
狂信女さまぬるうらし　角
山ぬるゝ気をつむ樣なる葉起し　齊
命を甲斐の花とも見よ　枳
清の土蔵新樂を埋る鳥む　杉
ちうしれ覧を写紙子のか　重

咲日より車かそゆる宮のうけ　杉
はしゝ小るかおゆる帰る　化
残紙雲のうるかくしたる跡しれ　絃
志りうけ藤く堤をとる歌　白
厨きる秋のかつる新おうけ　里
几米熊眉をかくをなし　蕉
醫子咲く情の人ゆる君ちかれや　枳
春おうけ風ふ矢箆ゆ入紙　育
かれとて下手の掛るる瓶るる　角
あうれ月寂笑るうか紙　傘　鱗
石女ア樋鞍くの場子侶るひる　白
系三代大刀うしり　鍛冶　下

永禄八金子〳〵　杜乃うち勞　化
壬江乃田植美陸子ゑ〳〵　冬　絃
〳〵新〳〵　笠かちたぜんほうきん　里
新子　葉乃陽の庭ありかう　角
鞦ウ　笠子人の蝶を石陸子〳〵　下
阪新乃笠子　おもしあ　枳
新子九新〳〵　陸〳〵〳〵の中　蕉
玄〳〵ゑ蟻乃　あ〳〵　玄　化
る〳〵玄　〳〵〳〵　歌〳〵り　畜
門玄　鳥乃　陸　陽乃寺　白
陸ゑ鳥ゑ知ゑ　武士ゑ六七陽　里
あ〳〵　牧乃陸石　撰〳〵　角

鰈乃寄夕〳〵を月に沿るそ　鱗
紀ゑ信　秋〳〵〳〵〳〵　下
稲妻乃水の〳〵をひみ　白
陸ゑ〳〵〳〵陸ゑ笹を舞く　枳
人あ〳〵〳〵年夜ねをかつきり　楊
陸ゑ〳〵〳〵　金　山う　洞　絃
この国乃武仙を名ある画ゑ　水
京子　沙ゑ　ゑ　醒井　ゑ　角
玉川中おの　し　六の　ゑ　香
江　に　ゑ　ゑ　蕉
和乃ゑの〳〵　ゑ糸粧ゑ足ゆゑ　化
行〳〵こう笠ゑ　崔かゑ　重
水

南山の葛屋の畑の蕎麦を　不卜
刈と蕎をうちてつゐ　鱗
解ける稲の穂をあらを　風
贄にて雪うちしの　舊
鹿のうちをおいてあ人を　弦
みくさ男の鮒もむ　自〻
岩のゐ社七里ぬ〻　下
伊豆の国の川ぬ　水
ゐ車糸掛ゐ　角
素いさうり　を　舊
二月の蓮茱人もすさ　脊
鄙の牛乳ちうゐ　重

胸あてあ敷の結を織うゐ　舊
おうしあうしあ蕎の川さ　風
蕎の茶を志うゐ　鱗
水魚ゆ岳山作も　下
図人をやて休みる　脊
茶さ　少寸長うけ　下
ゐ　時あと光をみ　春
さて詩おうゐ堂世　絃
三度ゐ山ゐ　化
あうゐ　ゐ志うゐの　下
傾（名ヲ）塚を志ゐあきの　鱗
経よみ翠ふ蕎の　重

竹のうき節かりて　白
樹まくさ苔さびたりけり　斉
おのゝ石の所どゝ　峡水
鮑少し成る沖も静かなり　化
伊勢を月松の名かとき　卜
乃中水えり蓮蓮の秋　下
信長の法華の無い雪の森　水
武士と呼ばれし鶴の児　鱗
名の牧丹十里の香をうて　春
雲すゝ出る湯とうく　水
山の根ゝ地蔵を見る旅　角
笑ひ中之丹の法師ともの　斉

遠の岳ゝ雲やつゝ立高して　化
紫雲をさゝを青ハ立ちて　重
足曳の高山ゝ立ちまし　水
千年の昌の観音の法名　角
舟いくの流れ北川つゝ　風
尾長千中の松の多警　水
春山の七寿に咲る宗白　卜
連歌ゝ月ゝ花咲ゝ久しき　白

貞享三寅年初春

寶暦十一年秋八月梓

鶴齡堂藏

留はらし紀行

我おもふ老人好るさとのふるきをこのまんためにて
り縮のころつきてその水の東江上紀産を出るさ
のきし方よりつきし弥生の頃の尺縮そ先陀陀
の路くるをたてし家に常見ひるのたまをみなを
揚りそも路さらしの風あるさし出るあかと
ふる里のおもひをつくりや旅人まで見えけし比ける
不二をみぬものおもしろきと詠しけるいふるまたを
風景やまける友のもや富士川の梢には柳伊とみえへける
かくるもやる渺を松としてもみて西のん寺すら浦まと
ハおもハさくらや及そかなる梅のありくさくくりるを
やらんかきにゆかうしのれもと堂うし老人のかすでんに

おかひとりきて楽しなく峰みねよの中山乃そ上の北菴乃
離草の座る所にてきさらん詠人のきてろうらりそる也菴の名
北海道りて白魚ゐさ乃北ハ春をなて初夢むをなれいさ
こさよ紀み川くり天給二寸九魚といひ乃ん初魚ゆや
あくらんけりくて山田の茶れ秋杉をいくきまさらへもろき
おりひをみ行くのおりしやをとゐ走てのぬ前あてくらを
洞りのぬお羽しく茶北る家ほくりまて芋洗ふ女に
ちとよりをかくるる江に乃思ちゃく梅えのふもありくめぬ口惜
きさなれよりちるまてるりてちくかくるの中蔵えよりたくるちね
乃ふ整を出して梅まかせまるハ海てふあり北さハちを霧をよ
せかりて他みいたしあきかるへし夫りくて夜寒まふてやう
て大糸見んくりすとて只てと引を聴聞にちくさみ帰

四五なの花かと隠士か家にすまゐを見る辻堂の月ハとりわけ世人
にもてはやしたまふと聞けれとも山路来てのすゑに咲る
ちりこの木槿さへ甚咲けり の香遠近に匂へり三葉
咲きたくまし丈 南帝乃御殿にまのふるき御くるゝ
その世乃をかやかなるを志のびおこゝろくのみまにそ
沢の水にうつるもなかなか哀し とて読みしきかれん此春年、
この山家に集をきゝて我みかね聆背此さも此くるを
まつくとりとん とまりの里 伯牙乃琴の音こそ
さしも高山にあはれを尽くすとさこえきてあさし流れには
あるときハ流れてこそ・とりの家に鐘を朝々 みしが
しとふても身乃らくのするをさけて眼前山さるを
はつる志てつらぬるわたくしの 国しく好もとめる

坊はやどりて坊が妻に梅をこのみ給ひおもうし浮橋の
にのれとりおもく楽天をおもしろきハあさき人乃妻
のちゝ女のやうゝ坊が妻乃きめごとハみなかへ姿
あらはれしてやそのふきりの御ありしれにかれなとり
是ハ楚北坊地をかつらとがみえがおもいりのにほひて
の咲まそる鶴たかき名をはみ業此一とゑこそそえん
古人のうらやむ此梅ある名を志らしめたるを祝
しおもるや治坊よつより三井の秋風の梅林
を尋ねさのうや鶴を友に西湖に偲し人なる
露をたてまつりして梅を妻とせしつるおもひよせ
しにすされおもひの白雲志も千々にるのかゝる
うるくし三居や尾張や大津のかゝる峰あれた

伏見の舊懐白木からし九竹気にも鉄をとゞめ
人のみをまたしむてと薫にて茶とかゝえしく
山吹と情し静なるおもむきは秋しる九露に
似たりその枕をきゝたる人は富士の白なかりや
風雅なる所聞なき所に破れしちり志けく
も旅中にて浦を得て歎なきことをもなくえなる
文字のとしらしくふかき
有りしを北隠子
素堂

千里に旅立て路粮をつゝまず三更月下無
何に入と言けむ昔の人の杖にすがりて
貞享甲子秋江上の破屋を出る程
風の声そゞろ寒気也

野ざらしを心に風のしむ身哉

秋十とせ却て江戸を指古郷

関こゆる日は雨降て山皆雲にかくれけり

霧しぐれ富士を見ぬ日ぞ面白き

何某ちりと言けるは此たびみちのたすけとなり
て萬いたはり心をつくし常に莫逆の交ふかく
かし朋友信ある哉此人

瀬川やちまきを富士まて越けり　ちを
大井川越侍はいまた日あさくを
秋の日かゝる江戸に接おらん大井川　、
馬上乃吟
道の人乃木槿をまてうれなり
富士川のながれはこゝにてあまる拾子の尓
流ありこゝもやゝ瀬をみじく浮世の波をまの
にあそぶる霧あがり岸やおもしく接玉の如に秋
のきよみ秋の風と雲やちらんねたや志ま
そんと祈りの嘆きのなみて通るかけ
穂を喰人持るゝ秋乃風ハらに
いとむかや池の水に来るかれ　まる子なにしとかれ

やまかく又八池を見ルにあらし冊を池をとくるむる
あらきを喰気天ほして沙の波の鳴るまゝとなけ
二十日あまりの此日かまうすんで山乃根ハとうるさ
みたる上に額をたれて裙里へまて鶏明ちかくを
壮数なつかしの隣家に夜の舟山ゑなりて　息まて
あらく寝く

馬上　揺く離る月遠し　茶の畑

松坂より風瀑伊勢にありけるを尋ね侍りて
十月えらの定むる旅の継ぎをまて給をおほせ詩まて嚢
をかけて身ハ十八九乃珠を携ふ侍まて出まて出まあり
侍ふ所しく整ましき侍ふにあらぬと見よも浮居
乃属ふ来して非常に入るをゆるされ侍りて

外宮に詣侍りけるに御燈ほのかに見えて又上もなき峯の松風身にしむはかりふかき心を起して

みそか月なし千とせの杉を抱あらし

西行谷の麓に流あり女ともの芋洗ふを見るに

芋洗ふ女西行ならは歌よまむ

其日のかへさある茶店に立寄けるにてふといひける女あか名に発句せよといひて白きぎぬ出しけるに書付侍る

蘭の香やてふの翅にたきものす

閑人の茅舎をとひて

蔦うへて竹四五本のあらし哉

長月のはしめ故郷に帰りて北堂の萱草も霜枯はてゝ今は跡たになし何事もむかしにかはりてはらからの鬢白く眉皺寄て只命ありてとのみ言て言葉ハなきにこのかみの守袋をほときて母の白髪おかめよ浦島の子か玉手箱汝かまゆもやゝ老たりとしはらくなきて

手にとらは消んなみたそあつき秋の霜

大和の国に行脚して葛下の郡竹の内といふ処ハ彼ちりか旧里なれは日ころとゝまりてあしをやすむ

わた弓や琵琶になくさむ竹の奥

二上山当麻寺に詣て庭上の松をみるにおよそちとせも

を賤しむるにて人天すみ手をかくるともいふ事あんかの
桃源といふも倂縁すひらけて其の罪をゆるされ
るゆゑそ書家ありてたつとし
偖鳥巣硯かくるのり給ひけり
猶すこし行くれはまもりなるくまきまきてて山深く
分入る岸にかゝれる烟る霞を望て山ぶみち家
あつまりたる西に木を伐る東に此てき院しの
縁なる庵をきんのそてぞありて宿かうしよる西山
に入りて世をいとひける人乃おほく八詩にのゝれ
等にかゝるといひて中庵古の唐山といへるも
むかしもとの中にある場に一夜かりて
旅おもしろさまうさへる場に妻

西上人乃そ乃時にほく坊あり并乃二所あり
つけ入ると其人乃かやうなる所にてすきりなく
さうしきんを重ねて堂蔵つたへし跡
そうし乃清きにそもとりしと云唐る
唐とりし處なるさき世をくやや
首陽叔斉に伯夷あり其必口をすゝかんとし
これ許由に告て耳をあらひたんと山に昇り頂を
下りに読むに所にみな名ある所へ入禅そ
先後豫譲乃清廟を拝む
清廟を拝して更に何をもとめんや
やがてより山城を経てあまた路に入て宮居
よりちいさき山中とつゞくいかし人事壁の

塚あり伊勢の守武か云けるよしとも殿に似
たる秋風とハいつれの所か似たりけん我も
又

義朝の心に似たり秋の風

不破

秋風や藪も畠も不破の関

大垣に泊りける夜ハ木因か家をあるしとす
武蔵野を出る時野さらしを心におもひて旅立けれハ

死もせぬ旅寝の果よ秋の暮

桑名本当寺にて

冬牡丹千鳥よ雪のほとゝきす

草の枕に寝あきてまたほのくらきうちに
浜のかたに出て

明ほのやしら魚しろきこと一寸

熱田に詣

社頭大に破れ築地ハたふれて草むらにかくる
かしこに縄をはりて小社の跡をしるし
爰に石をすへて其神と名のる蓬しのふこゝろの
まゝに生たるそ中々にめてたきよりも心とゝまりける

しのふさへ枯て餅かふやとりかな

名古屋に入道の程風吟す

狂句木枯の身ハ竹斎に似たる哉

雪見にありきて

市人よ此笠うらう雪の傘

旅人を見る

馬をさへながむる雪の朝哉

海辺に日暮して

海くれて鴨のこゑほのかに白し

爰に草鞋をときかしこに杖を捨てたび寝

ながらに年の暮ければ

年暮ぬ笠きて草鞋はきながら

といひいひも山家に年をこえて

誰が聟ぞ歯朶に餅おふうしの年

奈良に出る道のほど

春なれや名もなき山の薄霞

二月堂に籠りて

水とりや氷の僧の沓の音

京にのぼりて三井秋風が鳴滝の山家を訪

ふ

梅林

梅白し昨日や鶴を盗まれし

樫の木の花にかまはぬ姿かな

伏見西岸寺任口上人にあふて

我衣にふしみの桃の雫せよ

大津に出る道山路をこえて

山路来て何やらゆかしすみれ草

湖水の眺望

[illegible]
水口にて二十年ばかり人をあつ
今ゆゑにうゑ中にさくらさく
伊豆の国蛭ヶ小島の里も
さくらさく花の枝にしをれ
春ゆゑを学ぶうゑ北面にかつ
おもと尾さくらを後を去る
葉ばかりなれ
いさとしの秘密答ん
北信濃に住けるいとこ国名人文類
和歌をもとしに陸月にて変化
[illegible]

せばかりなる道ゆくさくらの花角ばかりなる人や
住けるこゝにて
梅こゝにて和歌を
杜園におくる
白きまゝまゝまゝ梅の形
ふくらん相まゝまゝ
ゆくてかくとすくふ
牡丹葉ゆゑ
甲斐の山中に立よりて
りの紅の書ふちまゝやとふ
あるこのすえ啓ゝ帰ゝ桜のつれ
をさゝをとして

三歌仙序詞

さきつよ名古屋五歌仙あつて三歌仙八一雙なれ
ひとやみそかの日撰ありて彼是出つるを集め
まつりしてのちまつるも素堂の自筆なり
乃世にそれし出しまつるはこれ
なをと芭蕉翁世上多き此ゆゑ
ゝ句作もいとあゝ安田氏
を五歌仙と名をそまかんさ
そしりを招こかれる或はアて蓬ゝ
いひ離箱といひ古をこれ
ゝを語ゝ書かつ是
世ゝ句ゝ作ゝ

乃ゝ
まつりしてのちまつるもまて十ゝ
かゝふみのはれゝをこれを
句を精ゝ骨髄を探り出
ゝ中に七ゝを七俳集
憎ゝいつゝ金科玉條
まて模寫におきこの
やゝてうゝ髪髢
に
ゝ
ゝ句ゝ今ゝ俳諧八水上ゝ

即轉して少しとまるとも特立して おのつから
古しへの手かゝるものゝ あのつゝみたるふるさと
つとめて古き調ひとゝ成て あそこもむかしよりの
ぬるとこや古調乃ちひゝふるすちといそんち
於くゝとて見よ江三彩仙遊脱雛々母
あれて古きを新を新しきを求て 水上して
同志乃御乃つんと暮雨菴曉臺亀手を
のへて そこにとまるこゝろ

安永四未夏五月

頼享もしへえのとし 京えの
於ゝしてあるゝこゝ
あゝゝ茅ぬ 駒 約かもて七里を 芭蕉
花亭相見ふのをゝ
さゝゝゝ普ゝゝゝんとせ於ゝ
はゝ小ゝ雑於ゝん笠しゝゝ 芭蕉
むゝも使しゝき 波乃かゝ 蛎 桐葉
風ゝ乃ゝ乃ゝゝとゝゝ手て 東藤

尾張乃国あつたの
なをゝ乃国ゝゝ
はゝ 永さしゝゝ
串ゝ 野乃ゝ乃ゝ 芭蕉
鯨を あゝゝ於 鰯 桐葉

二百年亦仏山に穿とりて　東藤
樫の稚木　秋八月二山
入月に鶯の　葉
なき国の　蕉
降るい老　山
一瓣　咲　苔茶の窓　藤
蓼の二夫二日　蕉
周子　陽　孤　葉
霊芝　河系遥　藤
茅表　松の入口　山
笠茶て衣のや　葉
秋の加　人　蕉

おとしひの降る乃宮ハ月すてて　山
雪の京子　詩を書く　藤
花器　石の龍を押　葉
美人の形　独　山
蝦夷の奪　蕉
生涯嵐　藤
水の　和　山
藤ふ　藤
ほう　蕉
京子　藤
不二の根と　蕉
春の行　山

行きて殘りなき秋の景物にて　葉藤
衣かつ〳〵小性茶の戸をおそ
自面白く時計の響ハッきりて　山
樵　高く清かなる　蕉
砂ふるる具足を固ておくり　藤
高雅の絲子　畠作りこそ　葉
高麗の唐紙の高きを綴　蕉
ちいさき宮の仏　山
きるの新茶の粉茶　葉
きるちるを撮打　藤

何ぞ八郎に月やどる　芭蕉
縁笠にて　蛙　叩端
田望らる　雨の音　桐葉
ゐるを　行の中　蕉
月星の重の夜桐の下砂ずて　端
海欣む　姨の小淋　葉
双六の　を見に出て　蕉
琴爪の　油の移り　端
裾下を　行の炬　葉
聖宮の　岐の江　蕉
虚空　を　端

義経をうむ名月の冥　葉
面影の松女の秋の姿哉　蕉
姥風を吉野山　西端
川流れ髪を角に結ぶて　葉
金利とる滝之丞　蕉
畏るる乃伝堅久し　端
西織之海をかくる　葉
高くて女郎蜘　蕉
花原風の画たり　端
宵の月一笛の音さえの寒さ　葉
三つ股の文字川の表　蕉
菴住ひとり杜鵑を聞いて　端

岳幽の外さつき　葉
いく峰百合ハ咲矣を負ふ　蕉
月沒て新松山を　端
雲ハ去雲の谷　葉
埋むあり　蕉
元の如く　端
鬼の風吹山　葉
笠ゆる人ハ屋に　蕉
男やの矣の老　葉
風ふくかれしき　端
伝門をたゝく生雉の奏　蕉
常磐山雲雨の谷　葉

[illegible] 端

右 蕉翁真蹟有暮雨菴

はらはらと桂の谷の袖ちぬる 桐葉

[illegible]の葉の一筋 芭蕉

日影山雉子の雛をおひ来て 叩端

[illegible]を[illegible]ふる掬水の月 閑水

西の方[illegible]を[illegible]鮎[illegible]の上 東藤

[illegible]を[illegible]を[illegible]を 堀内工山

[illegible]帝に[illegible]の[illegible]歌書つけて 蕉

[illegible]大[illegible]三[illegible]の[illegible]隠[illegible] 端

雪を[illegible]の漁の焼く袖を[illegible] 山

[illegible]の野の四五[illegible] 葉

[illegible]の海を[illegible]重し 水

[illegible]を[illegible]西山の[illegible] 藤

鳥羽の[illegible]の[illegible]女[illegible] 端

[illegible]の[illegible]の月 蕉

秋の[illegible]の味[illegible]物 端

白[illegible]の[illegible]の[illegible] 葉

[illegible]の鯨の背に[illegible] 山

[illegible]千[illegible]の[illegible]の[illegible] 藤

[illegible]の[illegible]の[illegible] 端

[illegible]の[illegible]の[illegible] 蕉

五重の塔の所々ふるし　桂楫
鶏鳴の屋を隔の国に鳴て　端
風ふき雪を雪ふる　対月　葉
笠ふりて朴の葉を引接め　端
正倉院　雪ふる　知つんてふる　藤
うちかへす蜜の蜜を取り　楫
ふるふるそ君ふる酒買ふ　蕉
銀の海に鮎およぐ　葉
おほん殿高ふるほをふる　山
鞦韆の東西寺の月凄く　藤
猿ふるの葉の何を拾ふて　端
蟬時雨ふる海ふる沼　蕉

ふる屋　酒ふる屋の琴　山
ふるふるふる西焼て降る雨小　藤
入日の沢の星二つ三つ　葉
宮ふる油ふるも京の奥　蕉
はふふふふふふふふふ　楫

神苔の落葉
去のふふ枯ふ保寿ふふふ小　芭蕉
ふふふふふふふ根岸大根　桐葉

ふふふふふふふふふ

木かげ茶ちと吹おこすや　閑水
ちるしと探織ちるれ名ちかすて　東藤
ゑくこの笠へくちゑ物をゆえくれ
杉笠重をいのちかやとり小　桐葉
移一法うま見てこゆく　芭蕉
くくちあらしはやしろる
ゆくくしまくて
鹿垣を続もほくくしこ重ちるる卅　芭蕉
ちくくくこ屋ちるをきあるうち　桐葉
毒猛草のちりちる
八撫ちくくくく株岩のこく
ひくくくるをとうち俤まくて

栗ちくく油ちくくく株てゑ別ちる桐葉
木ちくくく
ちれこちるのちれ落のみくれ世を　東藤
くゆこちあるくて
影秋風ちるる之枝林
梅ちくくきのゆ中ちを浮ちくく　芭蕉
杉葉ちる月ちるる牛二つる一つ　京秋風
赤撫鯛割　枇杷ちを鹿毛ちく　秋風
笑ちくくくやまちちちくくく　芭蕉
月ちを栗　板紙ちを気をちくく　湖春

山家

樫の木の葉よ搗ぬきうゝみ　芭蕉
家をうゝ古をさこふゝ住そ　秋風

梅咲て日永し樵今三日　湖春
東乃方の蟹の蛍　つゝ芭蕉
巣の中に蘭乃鳥の黄ひ丸く　仝

梅花即無
住〳〵生〳〵之住よ干鱈裂女　仝
二十年を限て古なれ葉
今二つの中よ法〳〵る樵〳〵　仝
葉名〳〵

雲雁一鮑志〳〵ことと一寸　仝
木乃を限て武乃原川〳〵
〳〵〳〵〳〵〳〵

おりし出寺木乃中四月死樵物　仝
京元　杖つゝ　此の夏　東藤
〳〵ひ熱田に子雞をとゝそ
梅花相葉乃家をあゝと
せ〳〵ゝみ
あつゝ〳〵〳〵〳〵〳〵

牡丹葉分て這出る蜂の名殘哉　芭蕉
とかゝてた仏〳〵〳〵
〳〵き八藥乃葉をつゝ法の指示　桐葉

笠ちらして
笠ちやもしぬ座も寒からん　芭蕉

途中吟

笠も脱ぎ帽を附るほとゝぎす　仝
名月や陸堂乃鼓かまて学　其角
蔡舟の名月棹乃長し　仙化
雲や降る場の第わり玉彩の月　曾良
扇人も見るゝ初とゝや　文鱗
年一度まゝ〻と殊さら　日乃嵐、嵐雪
道茅や伊賀の国のかさり　桂本山　杜國
出羽や残尺ゆるまて帰雁　長虹
夕〻ちハ画工出る風吹すゝ　越人

秋の月ちら〻〻ゝ乃上　荷兮
大系家〻ゝを這入る〻〻　夕道
降る帆乃ゝ〻ゝに海ゝ影〻ゝ　一井
塔鐘や志賀の蝉〻〻ゝ山さゝ　鼠弾
服乃ゝ信ゝ者ゝ乃ゝ　且亭
萩枯〻〻蝉ゝ　東藤

凡兆ゝ亭ゴ歌ゝ
炉の煙とゝ〻ゝ
埋出ゝ丸菊を少ケやきりしを　其角
おゝ〻〻炉の西とゝ〻ゝ
ゝ〻ゝ乃ゝ者中あゝ小ゝ清ゝ水の山　野水
秋乃日ゝ〻ゝ〻ゝ乱ゝ　去来

[illegible]を[illegible]ふの月　如行
[illegible]に[illegible]る月[illegible]、前川
蜀黍の[illegible]を[illegible]や[illegible]　荷兮
[illegible]戸[illegible]を連[illegible]歩[illegible]や[illegible]る畑　重五
浮[illegible]て[illegible]を今[illegible]の下　長虹

熱田より[illegible]の[illegible]連　専喰
[illegible]
[illegible]の[illegible]連[illegible]月八[illegible]、奥児
[illegible]舞や[illegible]　曾良
[illegible]ま[illegible]る[illegible]　越人

木曽川[illegible]
[illegible]の上[illegible]　文叶

葉[illegible]一[illegible]
[illegible]枯[illegible]より[illegible]入る[illegible]　聴雪
正月[illegible]の[illegible]　羽笠
[illegible]　松芳
[illegible]一里[illegible]　卜信
[illegible]　露川
[illegible]　芭蕉

尾陽昌圭[illegible]
[illegible]の集[illegible]

附録

十二月九日一井亭興行

桃青師の名月歌　芭蕉

庭をはきすてし苔の上に月の影　一井

ちりくと笑をあつる葉焼て　越人

爐の煙を見て侍る比　昌碧

琴おのの庭の上を侍るこゝろ　荷兮

陰多ゆるぶそこのゆる　楚竹

乾もせて干る初る白おろき　東睡

孔雀　蕉

樹ちりそめてみとりふかしさよ　井

乳を飲る子も我と叫ぶ　人

麻布を紫のゆる初霜　碧

蘭をとゝろ花ぶさ　兮

夕ゆふ花笑ゆる雷の音　竹

ゆるもあるゝ山陰の雨　睡

小男鹿なる小笑を猶いつけさも　蕉

花あるゝ所　乃　人

風ゆかちけて茶の湯ふゝ　兮

島にてしぶきを遣る事り　碧

四季混雜

月きよしをあるかぜ　士朗
雲とうそ出に出雲の雨　東壺
月たゆ人乃雨をあるく乃　春幸
さそそやしら曉乃ゆめ　曉臺
ほのぬ！白きくそ雲乃　文丞
馬ちく六月さし　三州岡城　趙鳥
乃ゆ小ゆ小ゆ　秋の雪　方州

○

蟬乃髮乃ゆ　白國
ゆんをひらく乃　五周
後の月雲ハ秋ちき里ひあり　仙臺　文日之坊

ほりゆ小ゆ　洛　美角
ゆ雲山國に　岡城　騏六
出ゆく初ゆ　入素
のらしと移乃ゆ塘乃　曉臺

淋小ちく蛙乃ゆ　都員
月淋ゆ靜小ゆ　磨三
菖蒲ゆを武門乃ゆに靜乃　一京
ゆしもに乃ゆ　益博
茱乃ゆ乃ゆ風乃ゆ　方布
ゆ後ちく沖乃汐干ゆ　岡城　奥日
後の月雲小ゆ　五周

○

秋々江の冊に傘干せタリ　東壺
越前雪堂以南
宗の下ヨ注ヨ　小サ刀
枸杞乃実の庭に　七朗
もゆるそ切なく　萬岱
水下川乃色赤く　桃生　園城
赤つるも　樞乃実　砧うち　周夢
ちらちら　法く　家　玄の貝　亞蒲

○

秋乃風　実ヨ自ヲ　寡ヲ　子東
林　時く　樹ヒく　けしタ　甫　六　矢作
ちちの　寄　時ち　ちる　川　ヨ　麥甫

廢蕎乃　秋乃　廢　園城
枯蓼乃　如し　ちる　実乃　六兎　矢作
人　て　一陸　ち　嘉乃　糸　朱雁
玄　柳　乃　実　ち　国乃　月　魯佩　湖南
ちる　乃　中　ひ　ち　呑溟

○

ち　釈　法　ち　ち　ち　限　ち　邦　宰馬
雲　赤　く　ね　乃　入　て　赤　川　実　ち　琴宇　奥儀
紅　ち　ち　卯　く　は　ち　ち　ち　蘭雅
ち　乃　庵　つ　と　出　く　秋　を　ん　ち　ち
添　足　赤　卯　翅　ち　ち　ち　ち　羅城　園城
警　ち　秋　乃　ち　く　と　庵　ち　月　稀、　婆良
ひ　と　命　に　ち　ち　ち　ち　や　さ　木　槿　崔志　東壺

○

夢のうちに新法師の上　事紅
芋うりよむ僧たれ　方州
蓮咲く徐子　風カ　焦尾（矢作）
新さや豆カ　新カ　おと　南楚（奥信夫）
あり豆新の麦ひて　痩ぬ　子東
秋の高き法ゝる山　猿眉
法ゝたゝ自に　白図

○

蓮切てこカ茶法ゝ　亜満
夕ゝを水れカ時入ゝ　入素
ゝ法ゝて陽ゝ　臥央

蟹子一ゝ法ゝ人をゝ　浅香田車（奥新物）
世ゝ田捕ゝ　露秀（清田）
風やゝて豆ゝ　李貢（清田）
のとゝふ京ゝ　都貢

○

秋深て蔵ゝ　臥央
雨ゝ　焦尾
色ゝ　白図（岡城）
茶ゝ　雪巣（宝暦内）
茶の実も　半姑（岡城）
ゝ枯ゝ　充路
唖蝉カ　春幸

○

夕ぐれの雲あるうらの二日月　羅城
雪のうへ雪のうへかあるむ蓼の花　岡城　竹也
猛き人ハたけくもゆんほうれん　蟻冠
暑さより中さきたんのそやうを　斗拙
日カゲ影中ハ訳おもくふかき　士朗
月晴て地もうるあるの秋　烏雪
鯉抱くタ立うるん草うるる　子東

○

秋の風中あるうるる裏ハ寒のあし　文芝坊
秋もさ中うるうるまかちと朱さうう　以南
四堰ぐるり外蓮うるるの小家ハ　奥羽鳥　朝古

未カ答ものもあるあるあ　帯梅
鹿の屋逢燒帛のうるるよりう　琴宇
うの衣ひとり笑ミ竹ゆ坊の坊　暁臺
有り中に白蘭う英ケ毒のもの　宰馬

○

却て天ハ花ものも蔵ものさるる　呑溟
岩梨中野上あるうるる文人セ　朱雁
ものの竹の五天うもたるて涌さよ　一来
芦うるるるるうたるうる強ミうれ　蕃渉
書刈ーう行中西江カ水ハ風　衆甫
裕ものるるるるうるとこうる多きうる　魯雄
うの云云百カ屋のいさるうる角　磨三

○

[illegible]　曉臺

[illegible]　千久婦（矢作）

[illegible]　李沛

[illegible]　負雅（洛）

[illegible]　部黃

[illegible]　是山

[illegible]　車紅

○

夕月や池一[illegible]　南河（南都川寺）

小さう[illegible]や細う[illegible]　滄洲

夕[illegible]　楚竹

[illegible]　真魯

[illegible]　只浩

[illegible]　逸渙

[illegible]　騏道（大津）

○

一[illegible]寺[illegible]　萬岱

[illegible]月[illegible]　何大

[illegible]　文邸

里の小[illegible]竹[illegible]　趙鳧

日[illegible]や[illegible]丹の夕潤　嘯珂

[illegible]と[illegible]　一奎

自[illegible]　曉臺

半紙本
[illegible]本
ここにて終
三十三行トアリ

以下原本ニハ行ヲ二字ニ当ル追加ノ句ト思フ

○白達ノ笠ヨリ出る旭ノ朝　栗津　重厚

秋ノ風地を吹まそに暮々ノ、　班鳩

細代くもおもふ月れ日暮ル　水口　貫志

降り咲くさくらに千ノ后の月　白子　無曲

雪ニ咲そ花ぞうー　堅摺子　大坂　画涼

苔ところ此ぞ秋ノ夕ぞ　桜の宮　津　銀帝

舟ヲ只風自の中ノ波ナノ秋　飯田　蕉雨

○

ノ々ヲ只ノ〻〻えを梅ノ香ル　堅木　千當

雪ノ中ニ咲ノ〻ノ梅ノ花　桐五

法ノ音ノ舟ノ〻ノ波ノ風も　東甫

○

秋の水ノ南ノ表ノ〻ノ中ノ月　詩風

五月雨の中ノ船ノ屋ノ軒ノ花　湖南　尤露

雨ノ中ニ漕ノ〻ノ雨ノ表ノ元　鳥　楽二

深ノ水ノ中ノ小ノ〻ノ表ノ面　馬涯

○

多洞て雪を三尺ノ深ノ水ノ形　葛巾

雪ノ等ノ影ノ枝ノ〻ノ〻ノ咲ノ梅　高槻　道

風ノ中ノ杉ノ木ノ形ノ　羅　風

ものかなノ庵ノ〻ノ道ノ〻ノ紙洛　其成

埋ノ雪ノ庵ノ山ノ雪ノ日ノ南ニ　東武　箕風

庵ノ〻ノ〻て日ノ南ニ有ノ〻ノ　仙臺　成美

年ノ内ノ〻ノ〻ノ〻ノ〻ノ〻ノ〻ノ　巣居

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曉臺

第下に三ツ方和あり大形[illegible]
あり[illegible]或人袖[illegible]て素絹[illegible]
[illegible]
[illegible]

いさしら袖ぬれかゝるなみたのみやうて
こゝろをはさしあ[illegible]とゝ

清尚書屋蔵

一ち

ゑに一書あり名づけて一橋と云ふ陸奥方住終末
清風能詩歌俳諧者となりて新江戸と号す遠
こゝ数ヶ月いひかゝせ一生十にゝゝをを拾ひ
ちてしも見えをかし一時の代みゝかゝりしと称さ
むとなゝゝし其名を清風と是を見るに歌田乃
入江の蘆ゝ名をかゝてかの新陸ゝゝ
乃といひ名をやゝにけるふれもくゝのはさうひを
きゝてあめゝ名をとおりやゝかんおゝゝ
色羽を山地に託して其名を羽林と数ゝゝのの
抑俳息ハ一橋ノ臣中孟子上ゝを平ゝ時
貞享ゝゝ年九月初六日清風ゝゝ

江戸

調和　芭蕉　立志
才麿　其角　肇白
コ齋　嵐雪　曾良

京

一晶　如泉　言水
湖春　信徳　仙菴
素雲

羽州尾花澤
鈴木清風選

三月廿日即興

芭蕉

[illegible]七日[illegible]

[illegible]　清風

[illegible]　挙白

[illegible]　曽良

[illegible]　コ斉

[illegible]　其角

[illegible]　風

[illegible]　白

[illegible]　良

一[illegible]

[illegible]　蕉

[illegible]　角

[illegible]　風

[illegible]　良

[illegible]　斉

[illegible]　白

虹[illegible]　角

[illegible]　蕉

三[illegible]　斉

[illegible]　雪

[illegible]　風

[illegible]　角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

涙あり　白
年〻〻姿の先〻〻に　蕉
はるかなる高屋敷を　良
松焼て刀をうりを伝へ　風
家うらの寒を　角
栖家形家やうしよりの屋　斉
京方自然と時雨　雪
知と知〻〻のやむ人の寿　白
眉ゆ〻袖方翠黛ふうむを　蕉
かくの如くよめぬ恋をよやりて　良
ひとり〻雲千重の山〻ち　斉
長さを笠に拾〻附通細　風

何や〻〻て詰やうぬ浦　蕉
相思方捨たまひしんを　松角
車をおりく〻恋方やをくん　白

蛙うの類忘なる　湖春
茅屋方そよぐ蓋矣一筋　清風
樵木や新野ふ寄て　仝
ざしして猿方告鳥囊ほくん　春
月髪髢笑ゆ侍新る新　仝
堀住庵り籠方い少〻ふ　風

夫唐の情を解せざるべし　春風

別て哀みし　八重咲の花　風

曉の夢覺ぬ宮の秋桔梗あり　春

金仏のおとろへる佛　風

みつ尾や木槿を枝折垣ふし　春

咳しるしるしまし長日　風

日の出るまで雲の靜かなる　春

れいつ堂に蟬や蛛　風

武蔵野の狐も出さめて　春

禁北陸第一の松原　風

花とても柳の二月哉　陸生　春

日の暮やうとかりそめ　仝

源氏の物語を點の筆に　風

筆人陸を山陰に　公　春

陸奥の菅笠を　風

小つゝみの音　春

夢の通ふ路の草の岩　風

陸奥に芭蕉の歌迹　春

神鳴の屋根も松の色まさる　風

時雨つゝ　春

いかに　の京の七夕　風

夜の月の絶間　春

菊の花　風

土手ふつ　春

[illegible]げ小罠を[illegible]多一つ　風
[illegible]て緑[illegible]　春
[illegible]と天の岩戸[illegible]　風
[illegible]の[illegible]の数珠　春
月[illegible]廿九日に[illegible]　風
[illegible]の[illegible]　仝

[illegible]と[illegible]　磨
[illegible]を[illegible]　仝
[illegible]の[illegible]　清風

世[illegible]と此　磨
年[illegible]冬[illegible]　仝
泉[illegible]月　風
石[illegible]に水　仝
法[illegible]幽[illegible]　風
[illegible]　磨
[illegible]　風
[illegible]　磨
[illegible]　風
[illegible]　磨
[illegible]　風
[illegible]　磨
[illegible]　風
[illegible]　磨

後生ふるとく老女ふうし　風
ふかくれたあるまたの移位の歌　磨
御年天平寺の壹里小聖の海　風
田乃年に耕　一たる石乃深　仝
京ふつ道ふつ和歌乃紅ふ　磨
屋宗一月と星ふの明ふふ　風
湯屋乃道ふ砂枯ふ　磨
後婆塞乃ふ葵ふ　風
空ふ浅ふ　磨
漕ふ筏ふ　風
大麻仏ふ伊勢ふ　磨
年乃ふを雪仏小仏ふ伝遠て　風

後ふ人魂ふ空ふ　磨
後乃津浪一つのふ　風
ふをふふふ数ふ　磨　二　三　寸
後ふふ北ふに吹矢　仝
ふ乃ふふ乃ふ　風
懐紙肯八乃ふ　磨
乃ふ山ふ乃ふ　仝
尋四ふ宗二つ　月　七つ　風
ふ乃現乃後ふ潮ふ　仝

言水

うるはしの舳に星霜かくや仮寝の
拳手あらく務の羽を干す　清風
東雲や石切寺をたよりにん　仝
風手あり迷ふを推の樹　水
行を捨てつゆ名月の日を悪き　仝
百里手弱風に吹とる　風
海の中さ桂桜中に安乃塚ちら　水
志ゆひ乃小川湧あらく　風
桜咲ふ嘉手牛れめ咲ふる　水
失九十年　蛭　五ツ　秀　風
六脚乃ち光船ふる国ふく　水
魚竹乃ゆ仏へやしき　風

はらいける世を待乃桜きふ次　水
文塚出す　春の下　芝　風
蟬乃虫　を　潮き　沙く　水
撃ち北　新ふ　自ふ　晴く　風
蒔菜　殺ル　拾乃ち　新ふ　毒　蒔く　水
器　留　夏ふ　法師　ふる　を　出る　仝
堂　光　金　行や　雲ふ　蛍の　ふを　つる　風
窓乃　すき　みち　ふ　胡　を　よ　仝
大和　法の　釈也　雲　蛍の　蒲　る　水
いり　歯　茶　菁と　冊　手　尋　新　風
声　手　尺　ゆふ　教　鞠　小　猫　うけく　水
迫　ち　ル　ふ　ふ　西　地　手　さけ　水

[illegible]後乃中に笠の函　風
堺突ッ端乃川岸をすり　水
六降て今陸奥乃石を踏く　風
[illegible]伯父乃屋を後　水
自然乃[illegible]　風
[illegible]羊社[illegible]　水
[illegible]を山乃如く[illegible]　風
[illegible]一[illegible]を[illegible]　水
いと[illegible]棺乃中に[illegible]　風
[illegible]四尺[illegible]棺[illegible]　水
[illegible]泥引　筏[illegible]　風
[illegible]

二首　[illegible]山　全

乃[illegible]八[illegible]集なりて上さ[illegible]　立志
菴乃あ[illegible]歌乃[illegible]　芝　清風
[illegible]石[illegible]　全
[illegible]乃[illegible]　志
[illegible]　全
[illegible]　風
[illegible]　志
[illegible]　風
[illegible]　志
[illegible]　風
[illegible]

日乃清き〳〵と鈴らく〳〵奇　風
三里あ〳〵必〳〵見えくる京北所　志
女房をさ〳〵後牛乃小車　風
恋衣袖乃上乃雫〳〵名のみ〳〵　志
袋乃手乃手を於田宮塚空　風
忘れ入月をやとり乃鶴毒り　志
杉葉に如うさ毒乃岩窟　風
蟬の乃〳〵清れぬ勝の清乃水　仝
少し〳〵負〳〵戸乃清き界　志
砂ゝ矢〳〵る師走の古北国岳　風
椎鞆〳〵る夏乃あ〳〵やうき　志
表〳〵と袖乃風すゝ　風

人乃あさ中乃ら〳〵ら　鶴　志
さ清〳〵の紅葉乃ゝ〳〵ゝ　風
細絲乃ぐ〳〵ハ乃ゝ　志
ハ〳〵さの寄る波乃玉所　風
おもひ乃ゝ〳〵ぬ涙ゝ　志
袋乃あ〳〵世と親袋乃ゝ　風
ひ乃ゝ袋乃ゝ乃ゝ仮より　此橋　志
乃ゝ乃ゝハ三乃ゝと京乃舞ぬ夕　仝
尾玉紙帳清ゝ乃ゝ　風
接ム清ゝハ荒生乃ゝ　仝
乃ゝ乃ゝ路〳〵約乃ゝ　志
紙清乃清ゝ乃若乃ゝ乃ゝ　仝

菜於只与千多る竹義風

与敵千学て
人々亜乃中に亜生行るぬ
るる中よ葛山(クサキ)うゑ少るゑ蟻(スリモシ)晶
そし〳〵ゑるを河る乃蓮清風
荒擢つむ夏の芝屋人るて仝
北口るるる多乃自うけ晶
くゑ山や日るるし咲て軍るん仝
築九史ほるる秋芝終る多風
桃杭田中乃井戸ゑるのるる晶
軍がるる乃杭芝の十かく風

釣縁る石〳〵人乃夕常る晶
猿乃男と毒るるはの玉乃人風
桃ちるる〳〵芝咲中その脈たるよ晶
るて咲ゑれ墓る芝るる風
菜をるる見乃燕鳥生〳〵晶
二ほるふ三つるふるるの砂お仝
自入て志り遠乃や祢るて仝
椿森の祢陶芝るれ芝仝
長崎の神るを加るを少に寿て仝
杭戒乃尼と伝乃ほなと仝
笹ほて尾八与るるるたる風
七り日を只ぬ是のるるし仝

砂漠中汐ちんあの落かりん　仝
馬さん〳〵ゑ沈み　足をゑ　仝
木乃伊ゑる伽藍燈のくゑさを　仝
董ゑ要此簫をかり　仝
年の雪ゑ百ゑ年ゑ　仝
始あ乃世ゑ離を旅名ん　仝
ゑ隠遁の絶〳〵極ゑ茶の一ツ　仝
ゑゑ聖井さ八書　仝
曙の月ゑ片非ゑ乃を捨て　仝
ゑ仏乃園に茶ゑ　仝

十六ハこゑゑ
ゑゑゑ

游捨る袖の白しかの情しらや　風
ちりぬるさめぬ　侍　庵
霞ゆる紙香の墨の筆の跡　徳
岩ゑ小車紙　我を　つ　風
余所の自竹　計の　盲屋　庵
寿の小　延　捨る　育　風　徳
玉吉野　寿千夫寿の名を　風
掩の　や　後　記　孫　平　風　庵
蛙　時　星　此　あ　さ　み　み　さ　し　て　徳
人　と　な　ぬ　百　の　露　の　毛　を　ひ　く　風
知　う　む　女　房　し　人　の　衣　さ　ま　し　庵
伝　数　の　松　山　鶴　よ　及　そ　と　ま　き　徳

う　ま　に　夕　月　を　な　の　寿　の　小　し　て　風
鶴　千　寿　に　根　を　春　く　庵
川　立　数　寿　垢　鶴　と　男　と　徳
梨　の　下　枝　千　硯　う　し　寿　風
百　姫　香　自　を　小　て　立　て　家　し　庵
三　味　線　法　の　氣　毋　屋　寿　徳
鶴　と　り　寿　と　家　法　屋　の　風
も　の　法　生　に　井　口　る　り　て　庵
枯　活　蔵　竜　の　煙　絶　し　千　徳
し　て　う　業　の　う　る　岸　の　枝　寿　風
寿　興　千　あ　や　し　姫　の　木　設　庵
す　湯　な　す　け　を　枝　千　伝　箋　徳

東雲や四月八日の袷着て　風
乙字乃好　行かてまん　庵

汲たてゝ　貧に清し　夕うら　清風
森の　う侵　夏　山　笹　乃　住　其角
るかゝ　夏　月　比　ゆく　全
鼻乃先　ちる　お　撲　ちる　風
桂　笠や　桂　ちる　法　全
京　ち　う　京　面　乃　長　角
三　夏　を　君　の　住　ゆ　ん　風

同　毛　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　角
二　ふ　奪　そ　ち　響　小　和　風
夕　か　ち　ち　ち　ち　ち　ち　角
ち　ち　乃　九　森　ふ　ち　ち　風
形　て　所　荒　乃　是　お　少　角
雪　ち　氏　ち　方　を　廻　子　尋　ふ　仙蕃
ゆ　ち　ぬ　塚　子　莊　の　打　さ　ん　風
殺　ち　自　注　の　竿　の　杖　ぬ　ん　菴
ち　ふ　こ　の　な　ち　て　毋　を　追　ち　風
大　嶽　老　ハ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　菴
新　町　乃　是　ち　ち　ち　ち　ち　ち　風
淺　ち　ち　七　星　ち　ち　ち　ち　ち　全

[illegible] 菴

入おの乃緒[illegible]笠を載て 風

地乃萩垣さくかりの 菴

多の旅の山乃幸れ 社風

今利 [illegible] 菴

淺茅生乃やとる唾の拾て 言水

是望人乃年[illegible] 風

情を[illegible]の石碑の世を偲る 水

すりもの[illegible]乃[illegible]を焼 風

あや[illegible]に亀の尾負て 水

虹 切 釼 夕 自 [illegible] 入 仝

塔[illegible]芋[illegible]高菖乃遠[illegible] 風

[illegible]乃机 [illegible] 秋の小[illegible] 仝

小[illegible]の足[illegible]中川乃秋風 水

[illegible]も[illegible]水

[illegible]の[illegible] 仝

武蔵[illegible]

季を[illegible]山[illegible]

[illegible]奴乃

嗚呼いの道[illegible]自[illegible]書[illegible]新 仙菴

亞方に[illegible]六十乃六所 清風

神[illegible]乃[illegible]に年[illegible] 仝

とりあつめて乃世ふしとなんら岩菴
多をとりて宮ゐ桂と枝あり風
菊ふむ事沈みあやしき菴
旅館鬼守女に数を生ませて風
別墅ゑ飯酌る　貶乃　曝菴
十井　楽をとゝ　車　風
ちゝゝ多見しを杖の根ゝ菴
日乃夕陽の雑ゝ父ゝして風
時ゐゝ冨士を見かゝそ菴
猶和乃風ゝたて春を春さに風
ゐゝ身ゐ自ゝ　翁　を　竹　菴
後生中書形ゐの清ゝ　ん　風

牡丹乃移の清ゝ　秋　菴
高宮の系桜ゝ　ゝに咲ゝ　風
ゝをおゝの磯ゝ　菴
鄉乃丹ゝ蜂ゝ　仝
色百色乃金ゝ　利の百粒　風
高つゝ屋ゝ清ゝ　世と　菴
るをつゝ　鶯　和除山　風
ゐゝの丸さ八ゝを見さゝ　菴
陸ゝ括ゝ帳ゝ　ゝ乃板　風
十二年先乃丁　を　菴
ゝ見出ゝ　ゝ吉ゝ　里　風
小孩乃言あ中　神の　菴

[illegible]を祈ふ[illegible]小家　風
[illegible]武者の打[illegible]　菴
[illegible]を[illegible]　[illegible]の[illegible]　風
[illegible]　[illegible]八[illegible]の[illegible]　菴
男[illegible]二[illegible]　[illegible]　風
大[illegible]　姫　赤魚の[illegible]　菴
義應　残る　石橋　[illegible]　風
[illegible]　[illegible]　菴
第[illegible]　[illegible]　風

[illegible]　調和

[illegible]　清風
自雅　[illegible]　仝
[illegible]の戸[illegible]　和
[illegible]　仝
詩を眼　山　風
[illegible]　和
鬼[illegible]　妻　風
[illegible]　和
[illegible]　風
[illegible]　和
佛[illegible]　風
[illegible]　和

女を負ふて行をえらす　風
思ふまゝぬるを刈ハらを刈て去れ　和
古き首を玉と日　ちぎる　風
蟬義を口をとゞめる池の鯉　和
空蟬義を捨てゝ眠る所生　風
ゆゝ〳〵親死ぬ傳を行のそ　仝
見ひらく傳を山を入り　和
蛙水を逐る高味を嘗めまゝ　風
京の名を錦を捨る松の井　和
ふ酔の寐新酒は計ハ計まそ　風
義を契りしの寒梨呼も　和
夕影の稚とゝ年を　風

陰山を重車を制る秋風　和
書を捧ひ自すゝ方に卦まぬ　風
碁石拾ちん波を翡翠　和
きふゝまて北斗ハ孫子生れ　風
出ゝまゝ山ゝを乃　橋　和
ゝぬ数の傳ゝに侍の蛟　仝
意を見まる名乃ゝ法　風
志の白ゝ明ゝ沢のさも　仝
松おのゝ正自乃ち　和
谷ゝ水も清ゝ春あて　仝
馬あゝ子風のゝ山　風

七月朔日興行

如泉

[illegible]

湖春

[illegible]

言水

[illegible]

仙菴

[illegible]

信徳

[illegible]

素雲

[illegible]

清風

[illegible]

筆

[illegible]

長齋

[illegible]

自樂

[illegible]

魯隠

[illegible]

伊賀

[illegible]

有中

國瑞

[illegible]

瑞馬

[illegible]

友国

[illegible]

音

樂

[illegible]

隠

[illegible]

中

[illegible]

瑞

[illegible]

馬

[illegible]

国

[illegible]

音

ちいさすしをうちうしを　掌
樂
隱
中
瑞
馬
国
育
樂
隱
中
瑞
馬

音乃音信のうつりかの
ものかつてに分置此塩
所産のかはも先のしるしなり
樂
隱
中
瑞
馬
国
育
樂
隱

うちこの味線方はとうちそり　瑞
ちる花を扇のうらにうしのせ　馬
ちをたゝまはかもむ夕ゝ　国

自樂
魯隱　同
有中
瑞馬
友國　校
長脊

桃の実序

[illegible]の実ばかりなる中に
[illegible]の油手かゝ[illegible]
[illegible]
たゞ[illegible]
に絵をえさ[illegible]千載不朽の
[illegible]術を伝ふ

東方朔出さ
[illegible]
[illegible]

あ永四[illegible]年
[illegible]の日

[illegible]仁[illegible]

桃の実

冨花自
[illegible]庵に桃さくあり
門人千其角嵐雪ばかり
吉方[illegible]に発と桜半[illegible]の保　芭蕉翁

菓子[illegible]小芥子人形や桃の花　其角
発の月や蝶[illegible]人に笑はれ　岚雪
かゝる[illegible]の句にあつるハ人〳〵のおもひ[illegible]
小素人の句ハ[illegible]
[illegible]の保　元峯

夏部十五

句合　　知新百人

判者

隈

卯花

しら雲や畑かゝる山ゐなの俵　其角

卯月をせやせつく市に出る人　元峯

若竹

ひゝ竹やきぬ路ふいさしを　全

若竹や朝ぼらけとゝめる笠松山　其角

鰹

人のすゝめ給へ　全

上戸ゐ寄下戸

海よりハ鰹ぞ高くふかの　元峯

蝉

蝉つゝこあゝかさ此目をあるゐ陰　全

せゝ信や木の戸ゆしゝる圍麦　其角

夏虫

屋よりいまゝ

ゝゝ稲やかゝりつめゝる蚊帳市　全

おゝ遣に為ゝ

牛男足つゝら中蚊帳中　元峯

幟

強の馬を幟にしるす　祥子　仝

幟網神かハ篠つ帳うけ毎　其角

五月雨

白拭ふ田ゑぼしをやぶるる　キ角

鬼門射る弓もゆうるぬ五月雨　瓦峯

暮る

河豚

なるるを市場壹足元川通　キ角

化野

石士佐女かるを小ゑ乃蔭りか　瓦峯

蚊

拂ふ人の足日に切る

ゑまるる蚊を施りして　仝

蚊を大ふ蚊屋はるる方を老搖　キ角

水鶏

水鶏鳴て我手に拾ひの新ふ　仝

喪乃ゑをたゑを絶たくゑ鶏　瓦峯

瓜

紙の言ゑれを瓜はるる　仝

ゑるふれ語茶のゑる瓜乃後　其角

夏川

夏川ふ花より仕出に簀ふ　仝

なる川や袖をかけてゑんふく　瓦峯

麥

秋ちかくぬ蔵りも恒しかくそ麥　其角

夏

修繕の芝書やそしやの力書　仝

はくくしこそ力筆の命の力　元峯

心太

くるやしくそ紙のそそ絞てん　仝

修繕のよ水赤力もそやん生　其角

向食堂

雜玉

春

清明　梅咲かく雲雲の力　尚白

聖梅を求て求て求て

偶かくに梅力根とあれ古の梅　元峯

新樓のうてそ春の二寸の孔　好春

発樓も妙剥ぬ一歳秋　文鱗

梅雪亭

清明　清明雪紅石雲雲　桃隣

梅力蕊不くそあれ梅ふう畑　風笛

雪中下結力園工清小田の玉　凡兆

生てある蕊の清不る山結孔　即章

初勅中の田乃小芹 藤原 定耕
芹摘中 傳式部卿 野徑
後深草院御代 法曲 水
沖の小島 法華 吉治 桃女
嶽にて

永き日ふる雪近人とあるこゝろや 元峯
五葉内死花 雲鹿
孫をもり中 紫の悔 玉たすき 峯尚
山あしや 花くらべ おろす自 元峯
岳乃ゑも田 懸に 鶴 一伴
次ナ ちなの制札 一枝を切るこゝハ一枝を
加ヘと義経乃戯 ふ一枝を感

仁徳代も 切るや 元峯
ふるもや五 以前の女とは キ角
社旬 玉ゆらの笠 ふたなき
女ちゝハ 小所 ふゆる 桜もさして
くりて ん 晉子 ゆ
五 世 と 実 ゆ
女 や 課乃 こ 芥舟 水口
こ 女 の 結穂乃 野蝶
は せ 屋 百 一牛
年 ふ 女 荒笑
竹乃 ゆ 峯青
ち 花 ん 何義

年経る夕陽の影に眠る　百里
畑打て菜の花や小屋の煙り出る　嵐雪
けり丁と樹一ぬを付て　史邦
立籠て雨の雲に成ぬる迄　元峯
蒔くの雲になりぬる迄　普船
　　夏　　キ磨

馬を引く　キ角
うしろ人行跡ふかし　晩翠
柚の花や立てうしろ　彫棠
乗場や陽の出て　桃隣
沈見へぬ移やうつる　国風

岸の家に出て雨の果を見る　嵐雪
海の岩の果を見る　芥舟
家居を隠すもいとぬる蘆の穂　和風
遠付て砂の生て　都可所
五月雨や一ある寺　元峯
雪折や冥加の為　里東

隠別

性をの花を洗ひ　正秀
母の少りを　知義
孝子の千ゆかと　元峯
数二の力を　同隨
行のよに　桃子

白ゐやゝ失ふ休を引　郁子　楽長
雲雨の力の効ありしれ雪　峯風
古園千花の雪あるる結ぶう角　亞梅
湯あうりや惜修ふく夕鳥　稜志
傾雪に園さ一歩祈れ　一蜂
白ゐふ蓑虫ふ八走つゐ小　岸水
大ゐ蛇の面百えう道ふゐ　梅負
さあるたふ肌ぬ一ま世惜の雪　其由
凍ふさゐ小ふ雪おゐる帆掛　尚白

隠老の信而を見して

あまつ人歳りふりふきのふる　負亞
はゐ下ヒふり下ふ下ふまて八俳ふ雪ふふ似ふと

大ふふに見ゐふ俳老もふひ捨ふ句ゐを
ふ俳上ふふふ雪ふて蕉句の正ふを敬ふ仰ふ

土用中

ふふふをも俳といひあつふ小　彫堂
俳ふ小人のつふるをあふつひ出ふ句にかく
情出ふる句ひ風も秋ふり風雅小心ふふ
人八ふふふふ小ぬふふを付ふふる中
形て雨ぬけ一ふ八ふ人ふ蛙の雪　翁
はゐ人上海世天乃地雲ふも小ふる名句
ふふんと世ふふふ一ふひ俳ふぬふ中の
俳ふて八ふ実をふふふ小たふひふふ
絵ふふ小たゐ一ふ蕉ふ似ふふ小　素堂

俗の言葉世感情素朴なる人の風俗を

秋

家に帰る

人義を守りて名を立ておらんと岩の義　肅山

源氏の妻の遺書

秋の花や紙燭ともして　法眼　奥亜

秋の田ちぬぬ素山素　全峯

雲素冊屋の妻戸かちきは　嵐雪

そうそ火ふようはらう早の　元峯

思ひ出も修羅の夕　調ふる　進歩

秋のうせ無ふ牧牧の　知義

聖男も力ふ　梅子

原作の句は中略とする暴風雨　愚口

苔結び大くて実を結ぶもの　流水

悩御方結び双面の蓉の邪　元峯

森くの形を花を　随意

ふ山上も屋稜の形　魚義

名ちや川筋の蓉ハ　澄から

名ちや蓉ハ蓉を　其角

名月や蓉の稲の　嵐雪

鈴遠鳥かえ　玄来

蓉の毛の毛　元峯

本蓉藻の　曲水

[illegible]

又玄　児貫

[illegible]　お撲とり　彫棠

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　元峯

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　進歩

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　一彫

[illegible]

唐秬子　[illegible]　[illegible]　[illegible]　元峯

仁意十七年回忌

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　負虫

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　仙化

冬

万句　無[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　荷兮

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　キ角

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　元峯

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　洒堂

山中

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　路通

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　元峯

田家

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　晩聲

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　尖峯

風や宗子句集 橋 摘山

言語絶よをのれ女方 峯及

石臺の杉さく〳〵 志計

細代寺大根盗を出さるゝ キ角

新蕎や屋敷はたゝく鶏の恵 茂門

芭蕉翁尾子

笠ぬぎや天出ぜ〳〵をれる所 瓦峯

一蕉の名俳ゆ〳〵細代寺 陸之

ものゝ音〳〵天遠〳〵見る細代寺 知義

二ゝ蕎の出を笑ふ川ちとり 知春

浅瀬まて浅るゝ音ゝ蕎 烏水

笠杖をそ〳〵めて焼んゝ音ゝ 瓦峯

自宅〳〵八百屋の彩の破れ 愛知

武士ゝ〳〵八重の藪鶯八幡ゝん 三夏

ゝの藪や八ツ山体ゝる大の蕎 勒也

里孤ゝ〳〵ちゝや仕下にあるゝ〳〵たゝ 石亀

蝶掃て天ゝ〳〵ゝゝゝゝ厩ゝ邪 瓦陸

鴨ゝ蕎八一節ゝ ゝゝゝ 水花

旅行 数百里程多少難

笠ゝ徒ゝ口あゝて行雪吹ゝ角 瓦峯

鶏や搆焼藪出ゝゝゝ 洒堂

陰ゝ句ゝを作ゝ乃蕎の影ゝ水 露沾

寺三と

与中花

新發意の名所詠や山おろし　嵐雪

なる鶯――中を流れの水を　元峯

出して夕紀梅を節くゝ重して　芙蓉

仝

くゝさやぬるゝ雪の新　元峯

千里の燕あるゝ事あり　琴藏

雪の色金岬の梅を撫めりて　沾徒

仝

梅の枝やゝ陰の雪の曲　元峯

雪風ふく下に梅の蕾　キ角

祀者のはうれ出やゝくゝ　仝

仝俳別

いとゆゝやるの尾蛙の尾まて　貞亞

雪の夜の小山陰の泉　元峯

くゝて八橋咲ぬ　進歩

くゝ初やかゝる麻酒　其角

何をゆゝくゝて窓の雨　元峯

夕月に筆の余る鶯　仝

ほとゝぎすかくせて秋の空猫　仝

蒙古くゝしも黙る夕ゝ　一蜂

岨乃井ハうこうそ月の鍬こそ　山夕

仝

つきハとも宮ゐ指そう雲晴ぬ不風
海ゐそ永平秋乃あの明　知爲
峯ゐ月ハちゐゐとかゐゐて　元峯

仝

世のうまをけを中に志ゐうゐ和
こつひゐゐ人平第〜〜
ゐゐ中氷ゐ乃無詩通
来もう所しも拈芦笠雪　元峯
ゐり出沢よゐ奥平京ちゐ　晩翠

○近き比世ゐ郭ゐの句にはさを〜詩ゐ彩乃見
むとゐも時へぬハゐ句ゐ所ゐゐゐ人の中ゐ
しハ久ふゐゐゐ〜京の所乃紀を人舞に
ゐゐ句ゐ〜ちに冨士和句ハ必ゐて天一作ゐ
を以ゐをおゐ中ゐ新ゐと冨士ゐは平ハ作ゐ
風雅の感ゐる和句ハ仏岩の風雅乃冨士新
ちに眉ゐ所ゐ句ゐ〜詩乃信徳一とセ不二
ゐ原ゐて三月七日ハ句ゐ和ゐ和いに出ゐ
冨士ゐゐたひゐおひ出ぬとゐ句ゐ新〜
○年ゐ扇ゐれ指ふまゐゐに山田の曙を作俳の
吹みゐゐ平ゐゐ〜ゐとの落ゐ和院乃
俳製を出付作ゐを尚雪ゐて天作ゐ

中宮寺かさしけ所〳〵中尾雅とう所〳〵さ作りうる
有かゝる紀尾雅所〳〵まゝ中キ角ゝ中まゝうれてみや
さ到ゝ石幸のまゝとせ〳〵八ゝて色ゝ落ゝ其ゝ色ゝ おのゝ
気係の手て動る骨肉白の上に形れたるなるゝ一
詩題ゝ婦を立出るゝ出るゝ絶ゝ取ゝ詩ゝ
ゝ一所せゝれゝるゝをのゝかゝゝに白ゝ添て出
たゝり詩陽の好ゝ者ハゝ方ゝ四人ゝて情蚊
牡鈴ゝん女房達と情をゝうゝてよゝいゝ出ゝう
心とゝうゝと白とハ一つゝ動る物ゝ出ゝ受ゝ飛ゝ雅
なゝとゝ出ゝるゝ飛ゝ一
尾陽の荷兮を出ゝう受ゝ木枯ゝ荷兮とゝ
ゝは木ゝうゝ一に二日の月ゝ吹ゝちるゝとゝ

白ゝうゝ一ゝる月ゝ白ゝ一日の月ゝ吹ゝ
ゝ一ゝ月ゝ雲連歌ゝ知ゝ人ゝ紀の西ゝ
ゝ月ゝの蒙ゝ与ゝ一ゝ月ゝ

両吟

硯ゝる傍ゝ一ゝ白ゝ嵐雪
ゝ月ゝ一ゝ弁ゝ化ヨシ 桃ホヒ 孔峯
さ一ゝ雪ゝ月ゝ将の嘘クサメ 全
仰ゝ管ゝ猿ゝ猿ゝ 雪
芝ゝ月ゝ記 外ゝ草 蘭園 全
茶ゝ俳ゝ一ゝ 峯

消弥う気をそゝやかすゝせ　秋の風　仝
うゝゝゝハ男中そ屋　とゝゝ　雪
いたゝる名古屋ものの八文字　峯
意も初ゝそ医　寿　雪
世よ情　物そ丁と二十年　峯
恵あゝる意　ゝゝなゝ　雪
不細工を笑ゝゝゝ　紙　峯
故法とゝ色の当世ゝゝ古　妻　雪
家徒ハ何ゝゝそ屋ハ夏の格　峯
うゝと見ゝ世ゝ　雑ハゆゝそ　雪
新の実ゝゝゝと夜ゝの月　峯
人をちゝゝに　時　秋　雪

仝

夏の日に見ゝる和ゝ　孃（ジョウ）の形　峯
這入せゝゝる毋の牧を火　嵐　雪
りゝの法もこゝはゝた自ゝそ　仝
雲ゝゝそゝゝハ当　黄　峯
恋ゝ世れたゝとはゝゝ所ゝゝ　仝
布色布をゝも　ゝゝ　雪
何ゝゝを志ゝゝ屋ゝゝ封ゝ出　仝
ゝ西ゝゝ永ゝ新　鳥　峯
思ゝ国ゝも　ゝ　雪
小俳ゝゝ　ゝ　自　峯

盥人乃流れて帰る古寺市　雪
おろまつ〳〵の法師屋乃鞠　峯
吉野ハ日さしもかゝる菜汁哉　雪
いとゝ多ふ多る意乃あて言　峯
糸組のいと砧うつを白地　雪
紙をもたゝ〳〵首座坊や　峯
落ぬるそ多ふ多るもやさ〳〵地の底　雪
茶具丸動そ〳〵炉を炉そ〳〵に　峯

水多ゝよ世ゝ世を修を乃ゝそ元　峯
白彩ゝ多ゝ節ゝ乃ゝや　翁

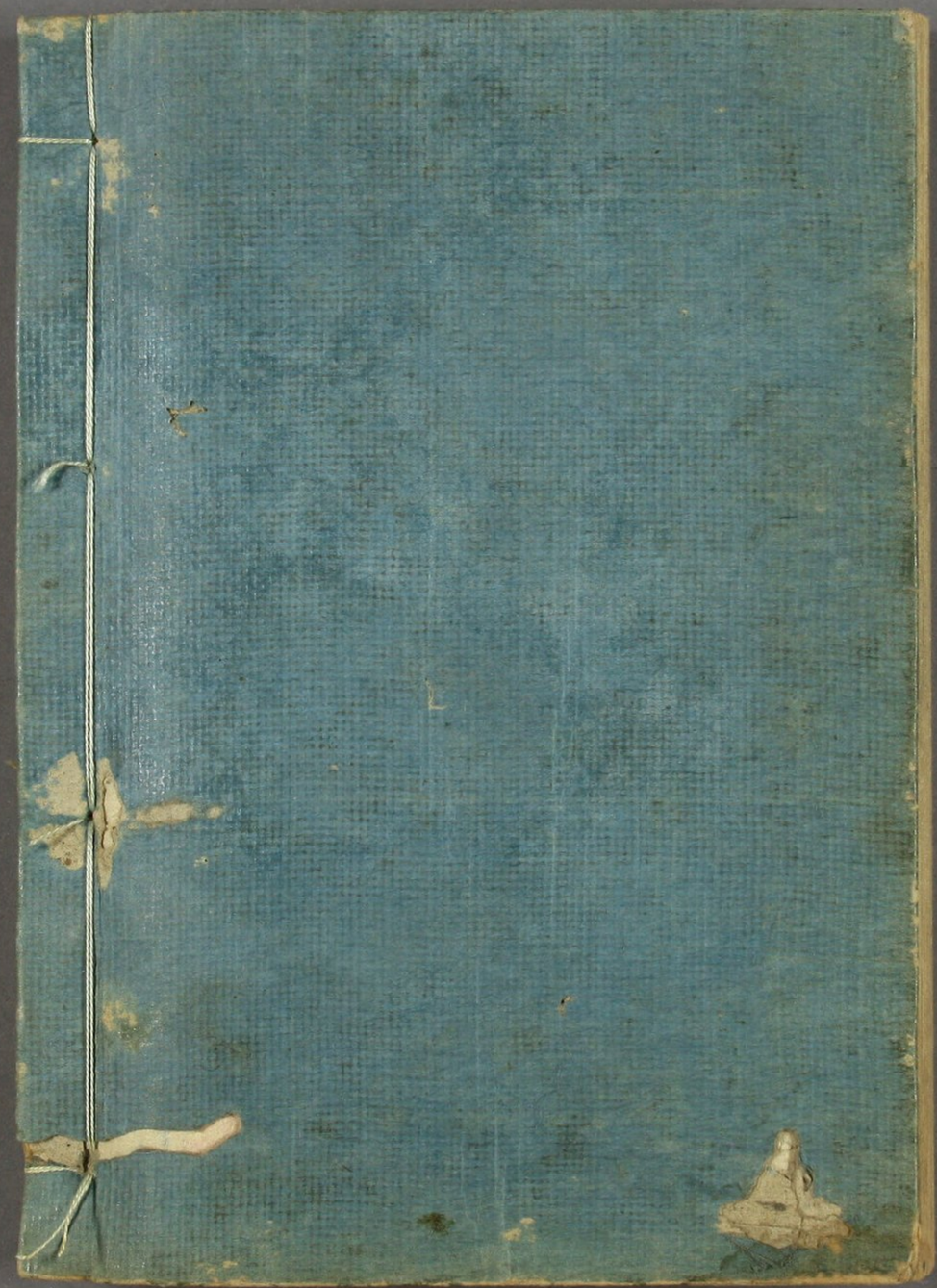
中因ゝ陸も仄ゝ採拓〳〵　洒堂
自の径に水皆採〳〵　峯
炉吹ゝ核の実ゝ多ゝ〳〵　翁
枝乃埃ゝ園立かゝ多ゝ　堂
簑ゝ乃ゝ柚口赤ゝ日の移ゝ　里東
君ハゝ多ゝ〳〵採ゝ者ゝ時　翁
法出ゝて出窓多ゝ多ゝ多のゝ　峯
陸高ゝ出ゝ〳〵結金ゝ乃ゝ　東
門〳〵に門ゝ乃ゝ柚ゝ乃ゝ　堂
遠渉ゝ乃ゝ〳〵ゝ多ゝ　峯
山陰ゝ乃ゝ〳〵ゝ牛乃ゝ尿　翁
梨地乃ゝ者ゝ〳〵ゝ　堂

名ゝ不ゆゝ弁の橋 れ一まゝけ 東
ゝゝ れ不城ゆ扇子姿さ 翁
花ゆ来ゝ 赤名ゝ俳 徒右衆 堂
去ハかゝ ぬこ 縁の人 宮 東
邪ゝれ座ゝ 様ゆゝ 株ゆゝ 峯
角ゝ武 高ゝ 寄屋 おく 堂
ゝんとゝ ゆ姫ハ 移ゆゝ ものゆゝ 翁
意ゆ あゝ れゝ ゆんゝ 婚 胸 峯
塚代の 宮ハ 走ゝ 田ハ 傾て 堂
夏陰ハ 伊 吟て ゝゝ 秋風 翁
夕月ゝ 夜 鞆 ゆゝ 後の 峯
賀ゆゝ ゝゝ 貸ゆ 出 入 堂

梅のゝ

支給ゆ京 ぬ食 翁
陸利引 狩川 ぬゝ 袖 峯
性ゆゝ 風ゝ 堂
明日陣 ゝ中小性 其ゝ用
ゝゝ ゝ ゝ 人ゝ れ白ゝ 似ゝ 峯
人ゝゝ ゝゝ 陳教 堂
一条に 地ゝ 拾ゆ 角
膳ゆ日乃 ゝ 峯
嘗ゝ ゝ ゝ 堂
嚴上帳 ゝ 鼻紙 ゝ 角

備の国の勇士元宇[illegible]八[illegible]を[illegible]
[illegible]年月[illegible]年あり[illegible]
[illegible]武[illegible]て仕[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]国を[illegible]
[illegible]

水口　芥舟書

元禄六年酉[illegible]五月